

道の駅あらお(仮称)

第2回 基本構想等策定委員会 資料



平成31年1月

荒尾市 農林水産課

1. 第1回 道の駅あらお 基本構想等策定委員会の振り返り

平成30年11月28日水曜日に開催された本委員会においては、以下のような意見が出されました。

(主な意見)

○市民をどこまで巻き込めるかがポイント。

○一過性ではなく、健康価値を入れていくと、きっちりとした文脈やストーリーができる。地味ではあるが、安心安全を徹底的にやることが重要な事であるとする。

○商圈ベースは、荒尾市、玉名市、大牟田市というのが、コアなマーケットになる。ここに対してどういったことを発信するのもポイントになってくる。

○地元周辺エリアからは、共感や成長という側面で期待されている。ここが、九州エリアや全国で知られていくと大きなポテンシャルになるのではないかと考えている。

○「道の駅あらお」は、市の最上位計画である総合計画の一端であるということと、ウェルネスという健康活用をきっちり打ち出していくような在り方というのが、方向性として、各委員の共通認識として持っていただけるのではないかと考えている。

○これだけ大きな事業を行うわけであるため、絶対に間違いないという方向性を密に示しながら進めなければ大変なことになる。

○ウェルネス拠点、健康というキーワードの中にも色々なものがある。荒尾の競馬場跡地に行くとおいしいものが食べられ、気持ちもリフレッシュできる。そのような形からウェルネスという言葉が他の道の駅との差別化にも繋がってくる。

○荒尾の地域資源として、土地の記憶というものもある。競馬場跡地を活用した馬事文化のレジャーゾーンの計画があり、一つ記憶が継承されていくわけである。温泉の話もあったが、潮湯という文化もあり、それとても健康的な話であると思っている。道の駅に取り入れるのか、その他のエリアで取り入れるのかは分からないが、そういった意味での地域資源についても大事にしていきたい。

○委員会スケジュールについて、期間が短いと考えるが、議論を深めていくためにも再考していきたい。

※上記抜粋は、委員からの意見のみを抽出いたしております。質問事項などに関しては、別添議事録要旨を参照ください。

2. 道の駅の現状及び特性

道の駅整備の現状

熊本県には31か所の道の駅が整備されており、九州での登録数においてはトップとなっています。
そのため、熊本県内で考えた場合、荒尾市の道の駅整備は、後発での整備と言えます。

全国 1,145駅(平成30年4月現在)

県内 31か所

九州では最多で激戦区

後発での
整備

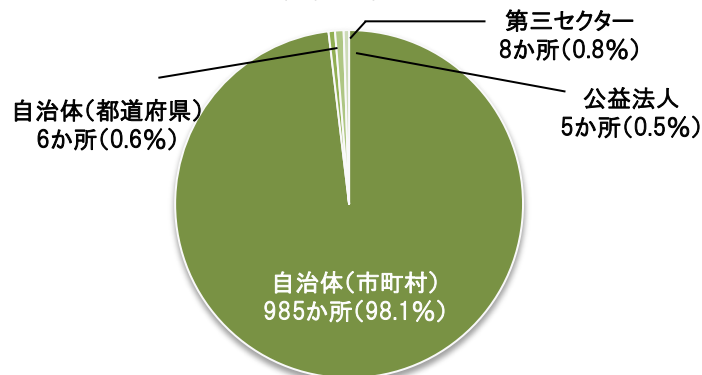
九州内道の駅登録数:130駅
(沖縄8駅除く)



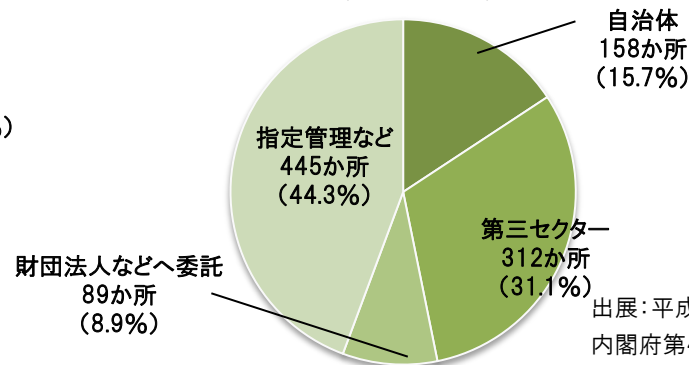
【全国道の駅登録数】※出展:国土交通省HPより

- 北海道:122駅
- 東北:161駅(青森28駅、岩手33駅、秋田33駅、宮城13駅、山形21駅、福島33駅)
- 北陸:80駅(新潟39駅、富山15駅、石川26駅)
- 関東:175駅(茨城13駅、千葉29駅、栃木24駅、群馬32駅、長野50駅、埼玉20駅、山梨21駅、東京1駅、神奈川3駅)
- 中部:132駅(岐阜56駅、静岡24駅、愛知16駅、三重18駅)
- 近畿:147駅(福井15駅、滋賀20駅、京都18駅、奈良15駅、大阪10駅、和歌山34駅、兵庫35駅)
- 中国:103駅(鳥取16駅、岡山16駅、島根28駅、広島19駅、山口24駅)
- 四国:87駅(香川18駅、徳島16駅、愛媛29駅、高知24駅)

【設置者種別】



【管理運営者種別】



出展:平成25年7月時点の道の駅資料:
内閣府第4回地域経済に関する有識者懇談会資料
(道の駅合計:1,004か所)

2. 道の駅の現状及び特性

道の駅の変遷:時代とともに変化する道の駅タイプ

平成3年に実験的に山口県、岐阜県、栃木県でスタートした道の駅は、以下のような進化をしており、現在は**第4世代の戦い**にあると考えられます。そのため、道の駅自体が観光施設として目的地となるような施設づくりを行う市町村が増えています。

第1世代

国土交通省の指導に基づき、ドライバーの**休憩所としての開発+ 簡易な物販機能**。(道路地図に掲載されることで、利用者が増える)



第2世代

地域振興施設の機能が強化され、**飲食や物販機能が拡大**。
(地域産品の販売チャネルとして注目が集まる)



第3世代

農林水産省の補助金を活用する形で、**農産物の販売スペースが拡大**。
(一般的な道の駅のブランドイメージを形成)



第4世代

様々な**ユニークコンテンツが開発**され、道の駅が観光地の目的化。
近年多発する災害に対応するため、**防災拠点としての位置づけ**が必須要件となっている。
(現在の主流)



第3世代においては、全体の7割程度が指定管理という名目で市・町の支援を受けて成り立っているのが現状であるため、第4世代では、支援に頼らず独立採算を目指すために他にはない、類を見ない、「わが町ならでは」のユニークな機能等を用いて集客を図っている。
(参考資料31～32ページ参照)

2. 道の駅の現状及び特性

道の駅の分類：立地特性による道の駅タイプ

道の駅を立地タイプ別に分類すると、以下のような形に分類されます。

①山間部・沿岸部タイプ



農産品：多
お土産：中
飲食店：レストラン・バイキング
商圏：20～30km

道の駅ファンをはじめとした、地域外からの来訪者が多く、その地域ならではの特産品や郷土料理が売れます。

③観光地・眺望などのロケーションタイプ



農産品：中
お土産：多
飲食店：レストラン
商圏：40～50km

雄大な景色などを目的に観光客が集まるため、比較的土日に来客が集中する傾向にあり、主にお土産的なものが売れます。

②幹線道路設置タイプ



農産品：少
お土産：中
飲食店：フードコート
商圏：30～40km

道路利用者が多い傾向(特に平日)にあり、他のタイプに比べて利用時間が短く、飲食、特にお弁当やテイクアウト商品がよく売れます。

④農村など平場設置タイプ



農産品：多
お土産：小
飲食店：フードコート
商圏：地元～20km

地域外からも集客されるが、地域住民の利用が多く、平日・土日祝日の集客数に大きな差がないので、生活利便性の高い商品が好まれます。

※南新地土地区画整理事業地内の立地特性においては、複合タイプと言えます。

2. 道の駅の現状及び特性

道の駅の分類: 近隣道の駅

近隣道の駅等(連携・競合施設)は以下のとおりです。

道の駅名称

道の駅みやま

道の駅たちばな

道の駅おおむた

道の駅鹿北

道の駅きくすい

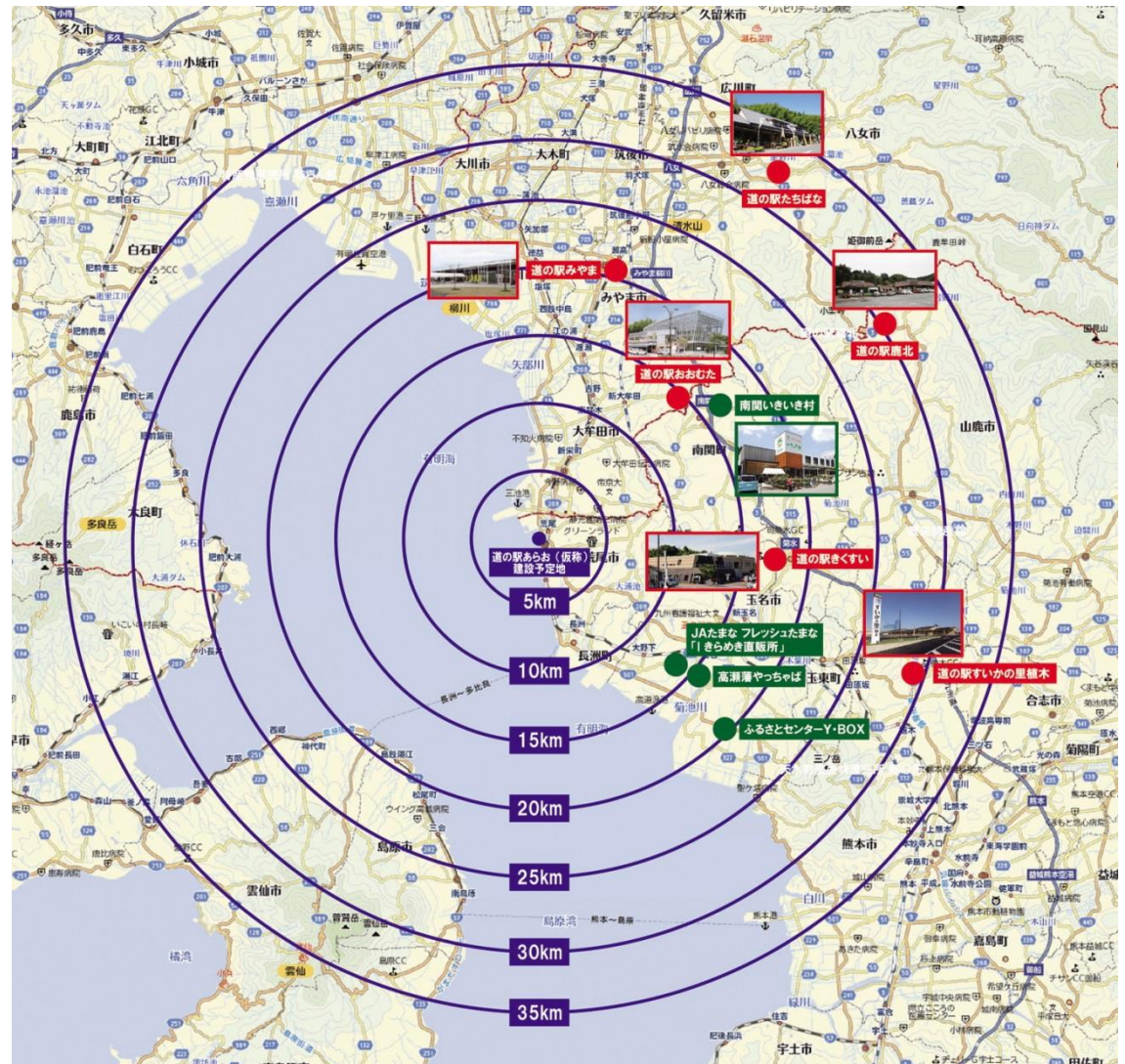
道の駅すいかの里うえき

(直売所) なんかんいきいき村

(直売所) JAたまなフレッシュたまな
「Iきらめき直売所」

(直売所) 高瀬藩やつちやば

(直売所) ふるさとセンターY・BOX



2. 道の駅の現状及び特性

道の駅の分類: 近隣道の駅

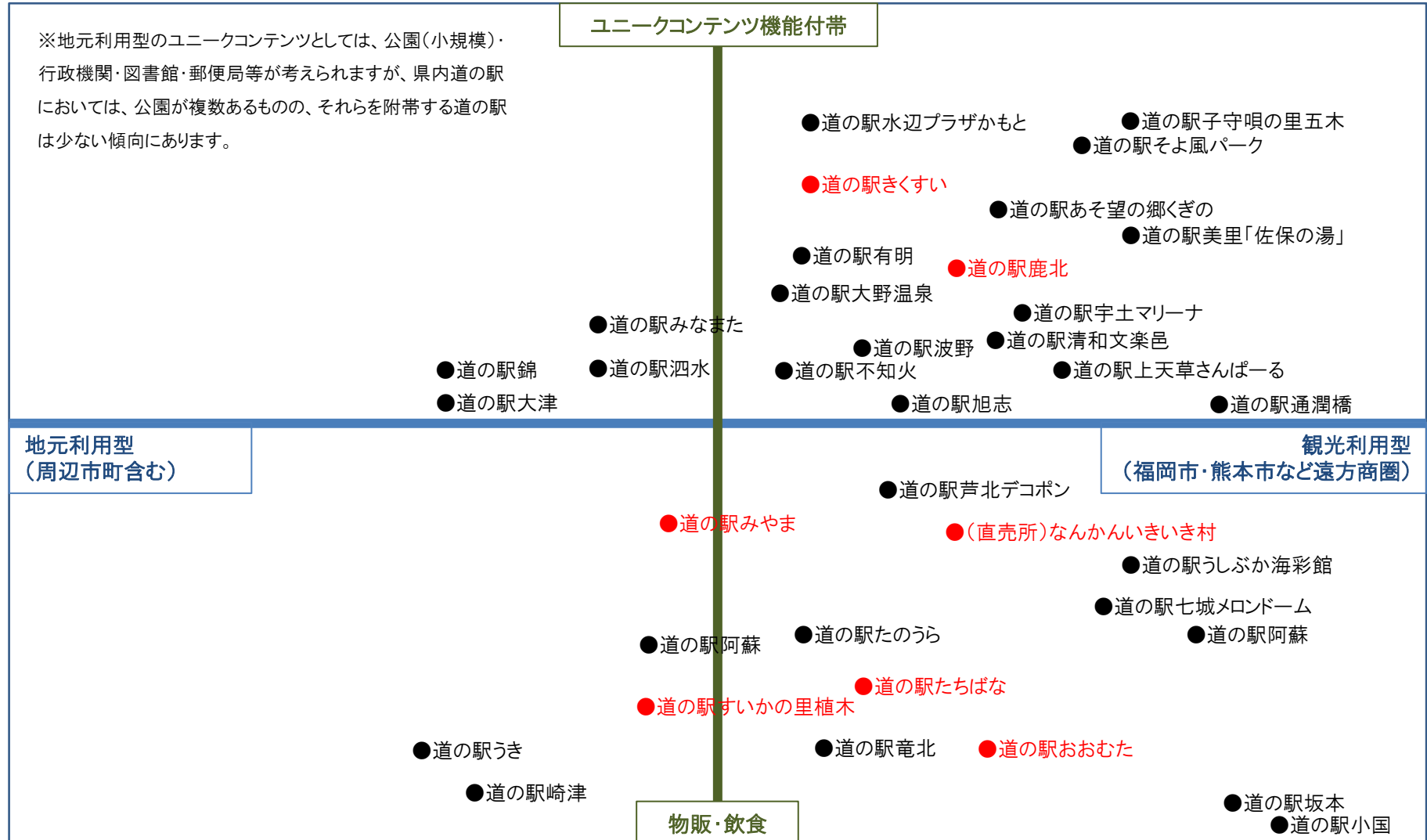
近隣道の駅等(連携・競合施設)の特徴は以下のとおりとなっており、本市道の駅では差別化を図っていく必要があると考えます。

名称	駐車場 台数	特徴的な施策	農水産物 の供給量	設置タイプ [○] (事務局主観)
道の駅みやま	161台	●地元食材等を使用した定番商品や季節限定商品等で魅力アップ ●特産品を使ったレシピ等を提供 ●地元住民にも重宝される弁当や総菜等の販売	農産物：多 水産物：中	①山間部・沿岸部タイプ ④農村など平場設置タイプ (第3世代)
道の駅たちばな	68台	●季節ごとに行われるイベントが豊富 ●地元産の食材にこだわり利用した田舎ならではのオリジナルメニューを提供 ●地域のしょうがい者福祉ショップ等と連携したイベントの開催	農産物：多 水産物：無	④農村など平場設置タイプ (第3世代)
道の駅おおむた	58台	●地元食材等が使用された料理をレストランで提供 ●小型犬専用ドッグランが併設されている ●惣菜や味噌、米などをネット通販で販売 ●周囲施設でイベント開設	農産物：少 水産物：少	④農村など平場設置タイプ (第3世代)
道の駅鹿北	189台	●獲れたて野菜や果物が満載な農産物直売所 ●地域の食材をしたメニューが豊富なレストラン ●木工体験、石釜ビザ作り体験ができる ●地下水を利用している親水プールが併設 ●近隣の沢を散策することができる	農産物：多 水産物：無	④農村など平場設置タイプ (第3世代)
道の駅さくすい	120台	●古代のロマンを体感できる情報発信基地 ●国指定文化財の江田船山古墳を中心とした古墳群がある ●広大な敷地でキャンプやカヌーを楽しむことができる	農産物：多 水産物：無	③観光地・眺望などの ロケーションタイプ ④農村など平場設置タイプ (第4世代)
道の駅すいかの里 うえき	106台	●熊本市に建設された道の駅としては第一号 ●スイカを使用した様々なオリジナル商品が販売 ●地元名産作物を扱い道の駅限定商品を製作 ●数ヶ月に一度の間隔でうえき市などイベントを実施	農産物：多 水産物：無	①山間部・沿岸部タイプ ④農村など平場設置タイプ (第3世代)
(直売所) なんかんいきいき村	300台	●地元から県外まで豊富な農水産物を提供 ●惣菜、弁当も充実 ●旬の野菜や地元特産品を使ったバイキングレストランが人気	農産物：多 水産物：多	①山間部・沿岸部タイプ ④農村など平場設置タイプ (第3世代)

2. 道の駅の現状及び特性

道の駅の分類: 熊本県内及び近隣道の駅のポジショニング

熊本県内及び近隣道の駅等(連携・競合施設)のポジショニングは以下のとおりとなっており、本市道の駅では差別化を図っていく必要があると考えます。



2. 道の駅の現状及び特性

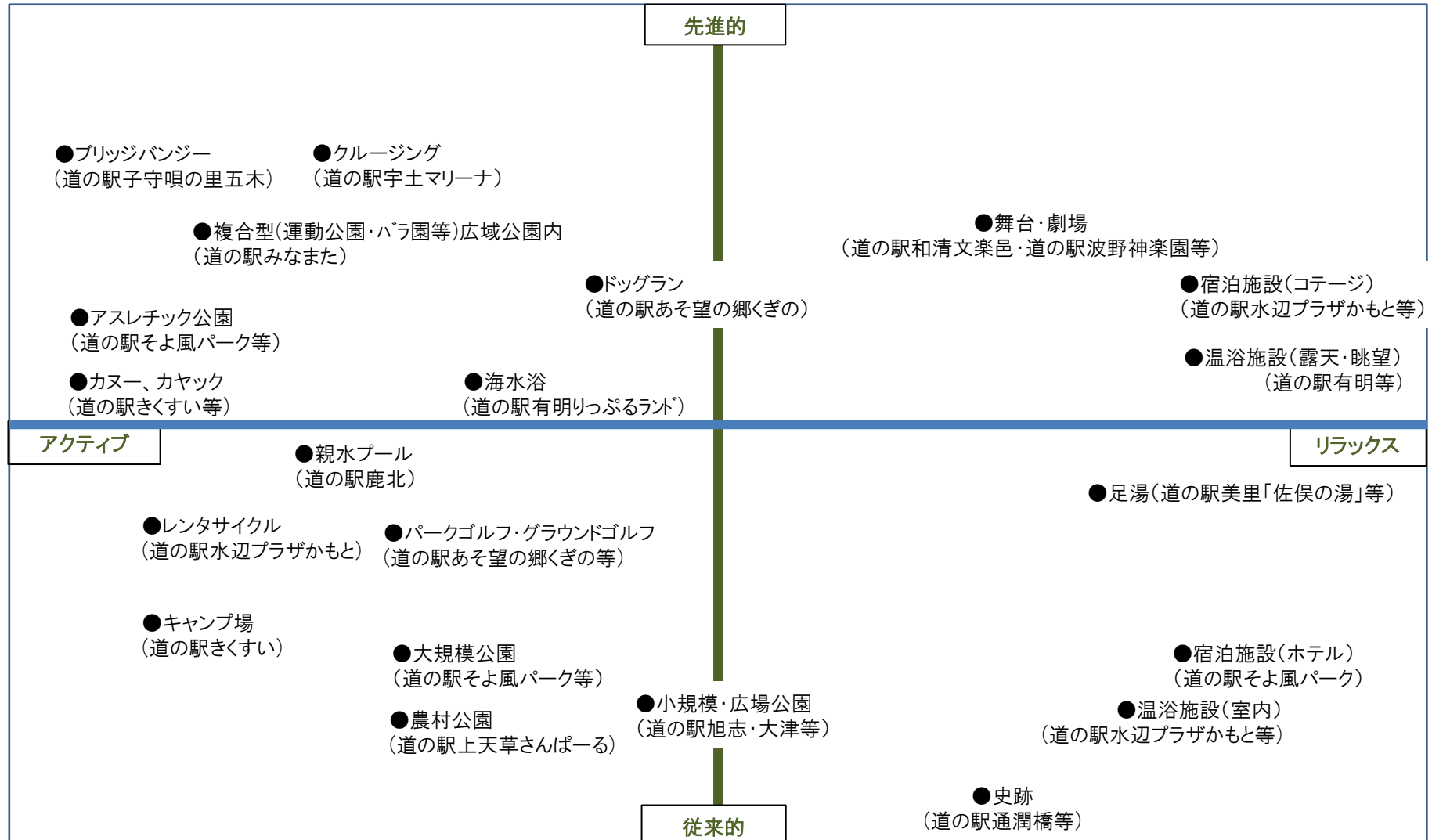
熊本県内の道の駅の付帯施設

道の駅名称	付帯施設・機能	道の駅名称	付帯施設・機能
道の駅 みなまた	公園(バラ園・広域公園)	道の駅 有明	公園(大規模)・ 温浴施設(展望風呂・海の眺望)
道の駅 錦	公園(わくわく冒険広場【遊具27種類】)	道の駅 美里「佐俣の湯」	温浴施設(広い露天風呂・川の景観)・ 足湯
道の駅 旭志	公園(広場)	道の駅 大野温泉	温浴施設(露天・古民家風)・ グラウンドゴルフ場
道の駅 大津	公園(小規模)	道の駅 不知火	温浴施設(室内)
道の駅 泗水	公園(小規模・孔子に因んだモニュメント)・ 敷地外に温泉(露天風呂)	道の駅 波野 神楽園	公園(広場)・劇場(神楽講演)
道の駅 上天草さんばーる	農村公園	道の駅 清和文楽邑	公園(広場)・ 舞台(人形浄瑠璃芝居講演)
道の駅 子守唄の里五木	公園(小規模)・温浴施設(露天)・足湯・ カヤック・ブリッジバンジー	道の駅 鹿北	公園(広場)・親水(地下水)プール
道の駅 そよ風パーク	公園(大規模・グラウンドゴルフ)・温浴施設(展望 風呂・露天なし)・宿泊施設(コテージ・ホテル)	道の駅 宇土マリーナ	クルージング
道の駅 きくすい	温浴施設(室内)・カヌー体験・キャンプ場・ 史跡(古墳群)	道の駅 あそ望の郷 くぎの	ドッグラン・パークゴルフ
道の駅 水辺プラザかもと	公園(小規模)・温浴施設(室内)・ 宿泊施設(コテージ)・カヌー体験・レンタサイクル	道の駅 通潤橋	史跡(通潤橋)

2. 道の駅の現状及び特性

道の駅の分類:ユニークコンテンツのポジショニング

熊本県及び近隣道の駅等(連携・競合施設)においては、どのようなユニークコンテンツの開発が行われているのか検証しました。



3. 道の駅あらお(仮称)の整備目的(案)

荒尾市における、道の駅あらお(仮称)の整備目的

道の駅の整備により、様々な波及効果・相乗効果が見込まれますが、以下の内容を主たる目的とします。

地域経済

- ①農水産業者の所得向上
- ②商工事業者の所得向上
- ③各産業の担い手の確保と育成
- ④雇用の創出
- ⑤新たな観光交流拠点の形成(観光産業の育成)

市民生活

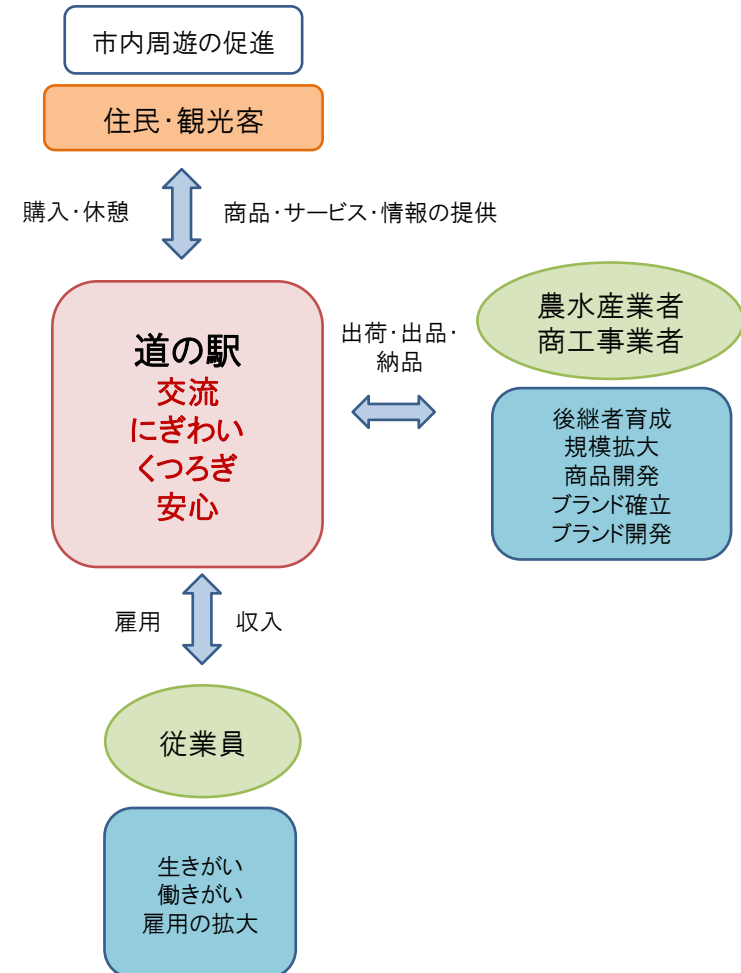
- ①新たな商品・サービスの提供
- ②新たに活動・交流する場の提供(にぎわいの場の創出)
- ③新たに働く場の提供
- ④地域防災の向上

地域経済の活性化

にぎわい・くつろぎの場の創出による市民生活の豊かさの向上

防災拠点の形成による防災意識の向上

【道の駅あらお(仮称)の整備効果(イメージ)】



4. 第2回 道の駅あらお 基本構想等策定委員会での協議テーマ

第2回委員会の協議テーマは、以下の2点です。

- (1)道の駅あらお(仮称)の整備の方向性の明確化
- (2)道の駅あらお(仮称)のコンセプトの検討

5. 道の駅あらお(仮称)の整備の方向性(案)

目指すべき方向性は、市における道の駅の位置づけ・役割を表し、商圈・ターゲットの設定の1つの基準となります。合わせて、コンセプトの設定、導入機能や提供サービスの明確化につながります。

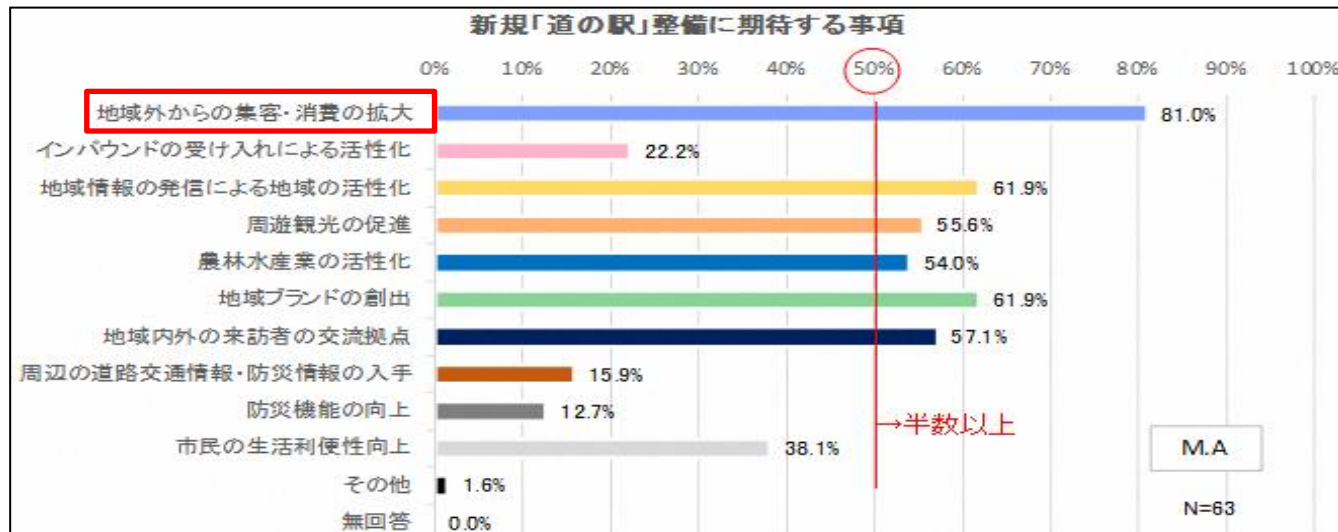
昨年度に実施した基礎調査及び現状分析より、整備の方向性について以下のとおり検討しました。

(1)道の駅への期待

●市内関係団体が新規道の駅整備に期待する事項：平成29年度 道の駅あらお(仮称)基礎調査より

新規道の駅整備に期待している市内関係団体(63団体)を対象に新規「道の駅」整備に期待する事項」を伺った結果、8割を超える団体が「地域外からの集客・消費の拡大」に繋がることを期待されています。

外貨を稼ぐことで、地域経済に好循環を生み出すことができると考える団体が多い結果となりました。



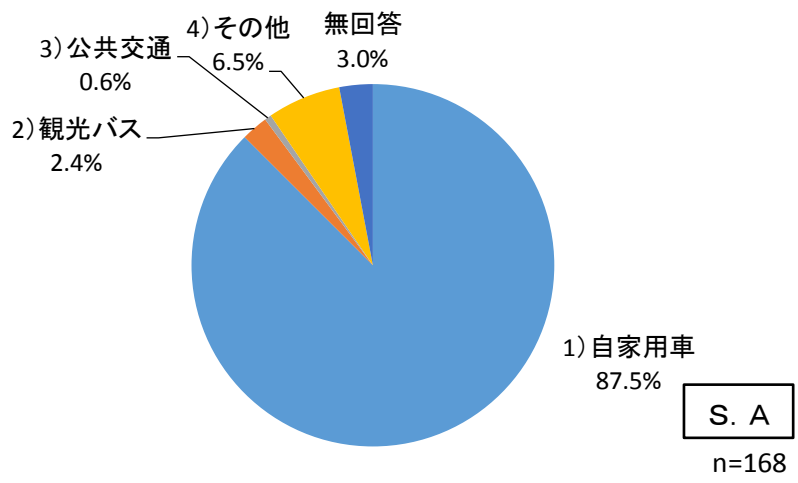
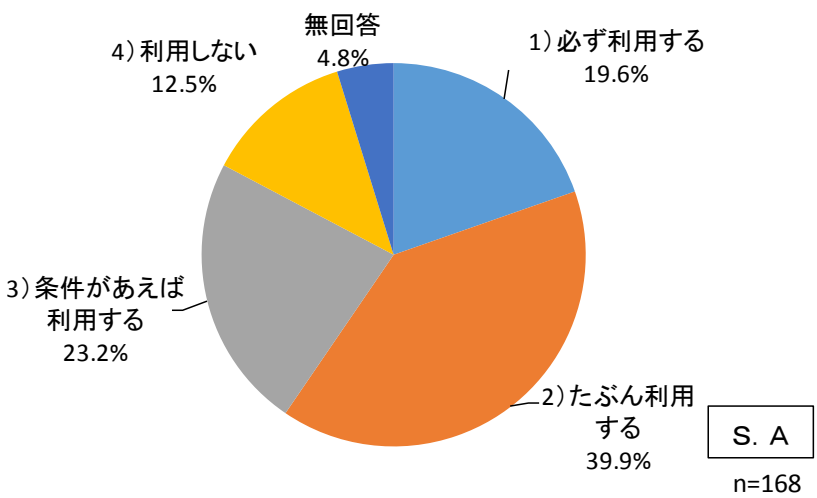
新規道の駅整備への期待を寄せる市内関係団体
(商工関係、農業関係、漁業関係、地区協議会等)
63団体の回答結果／アンケート総数72団体

(1)道の駅への期待(つづき)

●グリーンランド・万田坑来訪者の道の駅利用意向：平成29年度 道の駅あらお(仮称)基礎調査より
グリーンランド及び万田坑への来訪者(168名)に対して、新規道の駅の利用意向及び交通手段についてアンケートを実施した結果、必ず利用する(19.6%)、たぶん利用する(39.9%)、条件があれば利用する(23.2%)となり、グリーンランド・万田坑来訪者の約83%が利用の可能性があることが示されています。
交通手段については、「自家用車」が約88%を占めており、目的地訪問から「ついで」に市内周遊へと誘導できる可能性が高いことも示されました。

【設問：荒尾市では、国道389号線沿道の南新地土地区画整理事業地内(荒尾競馬場跡地)において、道の駅の整備検討を行っています。施設整備が実現した場合、あなたはこの施設の利用前後において、新規に整備された道の駅を利用しますか？】

【設問：本日の交通手段を教えてください】



(2)本市の特徴

●近隣道の駅等との差別化の可能性と道の駅整備のポイント:平成29年度 道の駅あらお(仮称)基礎調査より

有明海沿岸という立地特性

- ・海に突出した位置に立地するため、荒尾干潟などの特徴的な景観の眺望は、差別化のためのウリにすることができる。
- ・近隣で水産物を取り扱っている道の駅・直売所は、「道の駅みやま」、「なんかんいきいき村」であるため、有明海沿岸の水産物を取り扱うことで他の近隣「道の駅」との差別化が可能と考えられる。
- ・有明海で初めてラムサール条約湿地として登録となった荒尾干潟は希少性が高く、自然環境と調和した施設整備により、良好な施設イメージの構築が可能と考えられる(荒干潟が湿地登録となって以降、佐賀県において新たに2か所が登録された。)

⇒【ポイント】有明海の景観、自然環境を最大限に活かした整備

大規模集客施設との近接性

- ・近隣には西日本有数のレジャー施設(グリーンランド)が立地するため、これらの施設利用者が立ち寄るような工夫をすることで、集客力において差別化を図ることができる可能性がある。

⇒【ポイント】地域住民やグリーンランド利用者など、地域内外の人々の集客・交流を促す施設整備

知名度が高い特産品

- ・甘さとジャンボさが特徴の荒尾梨や養殖海苔は比較的知名度は高く商品価値としても高い。これらの特産品そのものや、これらを活かした商品開発などにより差別化が図れるものと考えられる。

⇒【ポイント】荒尾梨や有明海の水産物などを活かした、特徴的な特産物や特産品ブランドの創出

有明海沿岸道路ICとの隣接

- ・新規「道の駅」整備の予定地は、有明海沿岸道路ICの直近に位置し、ICからの円滑な交通を実現することで、アクセス性の良さをウリとした差別化が可能と考えられる。

⇒【ポイント】有明海沿岸道路ICに直近に立地するメリットを活かした整備(アクセスの良さ)

⇒【ポイント】荒尾市のゲートウェイとして、地域情報の発信による周辺観光の促進

周辺の都市機能との連携

- ・南新地土地区画整理事業区域では、ウェルネス拠点形成が進められており、これらの特徴的な施設と連携することで、地元住民にも愛される施設整備が可能となり地域との密着度において、差別化が図れる可能性がある。

⇒【ポイント】周辺の土地利用と整合し、地元住民にも愛される施設整備

- ◆有明海に面した豊かな自然環境を活かし、良質な居住拠点を形成
- ◆子どもからお年寄りまで、多様な世代が安心して過ごせる交流拠点を形成
- ◆交通アクセスを活かした、人々が集う観光・レジャーの発信拠点を形成

- ・ 交通便利性と有明海の眺望等の良質な住環境を活かし、高層マンションを誘致するエリア

- ・有明海の良好な眺望、自然環境を活かした公園・緑地に健康増進機能や癒しを創出

- ・市民や観光客など来訪者のための利便施設を整備
 - ・地区内に
- ◆保健・福祉・子育て支援施設
- ◆道の駅
- の立地を検討中

- ・ 駅に近接する交通利便性を活かした戸建住宅エリア
- ・ 国道沿いの地権者等の居住移転と市内外の新規戸建住宅地

- ・地域住民の買い物や駅への近接性を活かした利便施設を誘致

- ・ 県北の玄関口となる地区であり賑わいを生み出す沿道商業施設や地域住民の利便施設を誘致

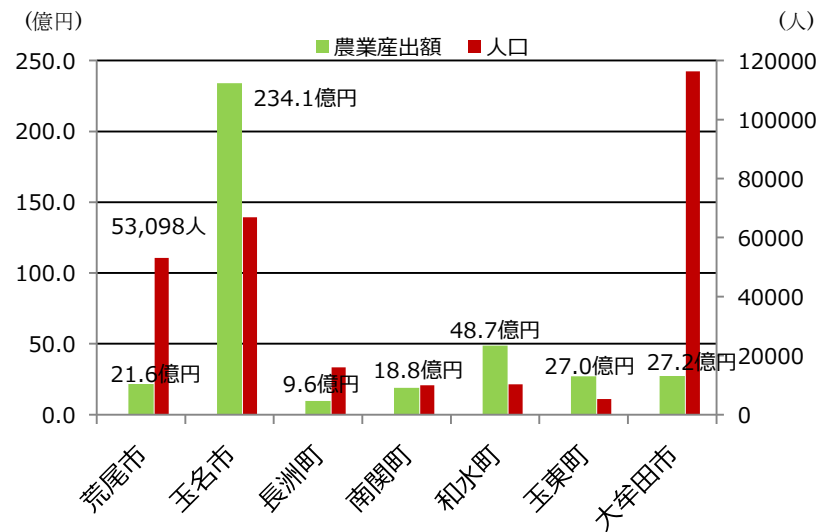
- ・場外馬券発売施設
- ・荒尾競馬の歴史を継承しつつ、質の高い娯楽を提供

**ウェルネス拠点形成の先進コア
(新たな活力・交流を育む都市機能誘導)**

(3)本市の課題

●本市の農業生産額と近隣市町との比較

農産物が他市町と比較して少ない状況にあります。



※図表：平成28年度の玉名地域管内（2市4町）、大牟田市における農業生産額
農林水産省 平成28年度市町村別農業産出額（推計）より

●市内農業生産者の出荷意向

市内農業者に対して新規道の駅が開設した際の農産物出荷意向調査の結果、出荷意向を示す農業者は現在100名となっており、他道の駅や大規模直売所の現状（少ない所でも日単位で100名前後の出荷者を確保）と照らし合わせても、少ない状況となっています。

生産面積の拡大、新規就農者の確保、出荷意向者を増やすための施策を図り、出荷物を充実させる必要があります。

アンケート対象件数
○613件(自給的農家含む)

意向	人数	割合(%)
出荷したい	100	16.3%
わからない	34	5.5%
出荷しない	355	57.9%
計	489	79.7%(回収率)
未回答	124	20.2%
合計	613	

【本市の課題(第1回委員会のおさらい)】

- 人口・・・H30.3月現在53,098人 ⇒ 2060年推計36,003人
- 農業・・・高齢化による担い手不足等
- 漁業・・・漁場の悪化や高齢化による生産量の減少等
- 商工業・・・炭鉱閉山や経済不況の影響による事業所の減少等
- 観光業・・・観光資源のアピール不足、本市の魅力を一元的に取扱い、発信する場所が少ない

(4)SWOT分析による荒尾市の現状の整理

	強み	弱み
内部環境	・有明海、普賢岳の景観、自然環境 ・地域の特産品（農水産物、工芸品） ・観光資源（世界遺産、ラムサール湿地等） ・グリーンランド（年間100万人） ・南新地土地地区画整理地区内における整備（他施設との連携、ウェルネス拠点の具体化）	・市内で調達できる農水産物が少ない ・将来的な人口動態（人口減少、高齢化） ・観光客が市内周遊する仕掛けの不足 ・宿泊施設が少ない
	機会	脅威
外部環境	・有明海沿岸道路の延伸 ・道の駅に対するニーズがある ・市内観光客は車（自家用車・観光バス）利用者が多く、また、JR駅もあるため、「ついで」の立ち寄りが誘発しやすい	・周辺にある競合施設（道の駅、大型直売所） ・昨今多発する災害への不安

※SWOT分析とは・・・目標を達成するために意思決定を必要としている計画等において、組織が有する外部環境や内部環境の2つの側面から、強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリで現状把握や要因分析を行い、今後の戦略方針等を立案する手法の一つです。

【(1)～(4)に基づく、道の駅あらお(仮称)整備の方向性(案)】

■特徴ある荒尾の地域資源を活かしたサービスにより、市外からの来訪者に満足度の高いもてなしを提供する施設

- 地域資源を活用した商品やサービスを提供することにより、周辺市町居住者(大牟田市・玉名市・長洲町・南関町・みやま市など)、既存観光客(福岡市・久留米市・熊本市などを中心とする九州内)、有明海沿岸道路利用者(平日はビジネス・物流関係者など)の方に対する利便性を高め、交流人口の拡大を図る。
- それにより、地域経済を活性化させるとともに、創出されるにぎわい・くつろぎ・安心の場の利用を通じて市民生活の豊かさの向上を図る。

■南新地地区に立地する新たな施設との機能的な連携により、複合的なサービスを提供する施設

- 「南新地土地区画整理事業地区」に今後立地する施設との連携による相乗効果を生み出し、道の駅単独では実現しづらい新たな魅力付けを図る。
- それにより、道の駅を含む立地施設(機能)で南新地地区を特徴づける「中心核」を形成し、エリア価値の向上により、競合施設(道の駅、大型直売所)との差別化を図る。

6. コンセプトの検討

●コンセプト設定の目的

コンセプト＝「全体を貫く統一的な視点や考え方」

コンセプトは、道の駅あらお(仮称)の方向性(目的・役割・位置づけ)に関して、簡便な表現で、広く理解をしてもらい、道の駅あらお(仮称)に関わる全ての方に対して共通認識を持ってもらうために設定します。

●コンセプト設定に必要なこと

コンセプトは、「全体を貫く統一的な視点や考え方」示すものとして、整備する施設の「本質」を言い当てる必要があります。

例えば、以下のような切り口が考えられます。

- ①地域の特色を盛り込み、地域ならではのコンセプト
- ②地域(施設)の今後のあるべき姿を盛り込むコンセプト
- ③地域の課題解決施策を盛り込むコンセプト

●コンセプト検討における今回委員会の位置づけ

今回の委員会では、道の駅あらお(仮称)の整備の方向性に基づき、「荒尾らしさ」についてご意見をいただきたいと考えています。

次回は、ご意見も踏まえ、事務局よりコンセプト案及び基本方針案を提示する予定です。

整備の方向性

コンセプト・基本方針

← 今回 → ← 次回 →

●コンセプトの設定事例

地域場所	コンセプト	基本方針
大阪府岸和田市 道の駅	『(仮称)道の駅きしわだ』 ～ 岸和田らしさを伝え、人々が集う空間 づくり ～	基本方針1: 岸和田の魅力を伝える空間 基本方針2: 人々が集い、楽しみ、交流する空間 基本方針3: 岸和田の資源を守り続ける空間



大阪府岸和田市の「道の駅愛彩ランド」。小高い丘にある道の駅で泉州産野菜がメインのビュッフェ&カフェが人気の道の駅。また毎月2～3回、出荷者達が講師となり、お料理教室や生け花などの「もの作りクラブ」が開かれたり、月に一度は農家さんが主体となって「試食会」が行われるなど、消費者であるお客さんと出荷者である農家さんとの距離を近づける為のイベントが多く企画されています。



「道の駅愛彩ランド」のレストランにあるビュッフェは、毎日40～50種類もの料理やデザートがずらりと並ぶ。野菜は道の駅に出荷されているものを使用。



海が近いという立地を生かし、鮮魚店が併設されている。



世界一甘い桃としてギネス世界記録に登録された幻の桃が手に入る。



地元で作られている米を使った米粉のパン。

地域場所	コンセプト	基本方針
山形県米沢市 道の駅	～オール米沢(置賜)を 体感・創造・発信する道の駅～	基本方針1:山形県の南の玄関口に位置する総合観光案内窓口の道の駅 基本方針2:シームレスな県内観光を支援する交通結節点の道の駅 基本方針3:地域の歴史と文化を活かしたおもてなしの道の駅 基本方針4:地域産業を振興し、地域の元気を創る道の駅

■コンセプトの設定に関して

2018年4月20日に開業し、13日目で10万人を突破した人気・話題ともに高い道の駅である。

関係する農業・商工・観光事業者が「出来る限りのおもてなしを行うこと」を「米沢らしさ」とし、米沢市の総力を挙げた食の拠点として整備。食のクオリティで人を呼び、米沢に来ていた来訪者に、周辺地域を楽しんでいただくことを前提とした。

また、シームレスな観光案内を基本方針とし、山形県内全体の観光案内を行っている、山形県の玄関(ゲートウェイ)としての内装を心がけた。



地域場所	コンセプト	基本方針
三重県尾鷲市 道の駅	～尾鷲らしさを感じ、みなが集い賑わう 空間の創出～	基本方針1:市民と来訪者が笑顔で集える空間の創出 基本方針2:尾鷲の恵みにまるごとふれて、地域とのつながりを味わう 空間の創出 基本方針3:尾鷲特有の災害経験を生かした安全・安心なまちづくりを 全国発信

地域場所	コンセプト	基本方針
愛知県日進市 道の駅	市民が集い にぎわい 成長し 都市をデザインする「道の駅」	基本方針1:市民が憩い、集い、出会う空間を創出 基本方針2:市民が交流・連携し、にぎわいを創出 基本方針3:市民が学び、成長し、新しい「モノ」「コト」を創出

地域場所	コンセプト	基本方針
茨城県筑西市 道の駅	fun! fan! fan! ～みんなが楽しい道の駅～	基本方針1:市民が育てる道の駅 基本方針2:市民活動のステージとなる道の駅 基本方針3:「筑西の農力」が発揮される道の駅 基本方針4:地域内外から人を呼び込む道の駅 基本方針5:防災について学び、備える道の駅

地域場所	コンセプト	基本方針
静岡県桶川市 道の駅	『つなぐ つながる つなげる 道の駅 べに花の郷おけがわ』	基本方針1:東京から1時間 都市と故郷の交差点 基本方針2:陸・空・川のネットワークを活かした防災拠点 基本方針3:手ぶらで楽しむ 地域の百花店

●昨年度の基礎調査における基本方針・コンセプト設定のイメージ

次回(3回目)委員会において、今回、頂戴したご意見(「荒尾らしさ」のワード等)を踏まえて、「荒尾らしい道の駅」とは？を基本方針やコンセプトとしてご提案いたします。



●荒尾らしさの考察

道の駅あらお(仮称)の整備においては、「荒尾らしさ」を具現化可能な施設にしていくことを基本としますので、「コンセプト」の設定においては、道の駅あらお(仮称)の整備における「荒尾らしさ」を考える必要があります。

荒尾市のイメージにおいて、荒尾市への生活・居住経験のある「荒尾市・近隣市町居住者ならでは」の視点や感じ方、その方々が気づいていない「遠方の居住者」の視点や感じ方には違いがあります。

「荒尾らしさ」を考え、設定するためには、地域内において感じられる「荒尾らしさ」と、地域外から見る(印象)「荒尾らしさ」の2つの視点を考えていく必要があります。

■荒尾の特性

【地域資源】

《ヒトの資源》

■西村赤音(タレント) ■ヒロシ(芸人) ■海達公子(詩人) ■炭鉱ガールズ

《モノの資源》

■小代焼 ■荒尾梨 ■アサリ ■有明のり ■マジック ■みかん ■米

《体験・交流資源》

■荒炎祭 ■マジック釣り大会 ■梨狩り ■潮干狩り ■小代焼体験 ■梨の花ウォーク

《歴史・自然資源》

■小岱山 ■荒尾干潟 ■有明海の夕陽 ■雲仙岳の眺望

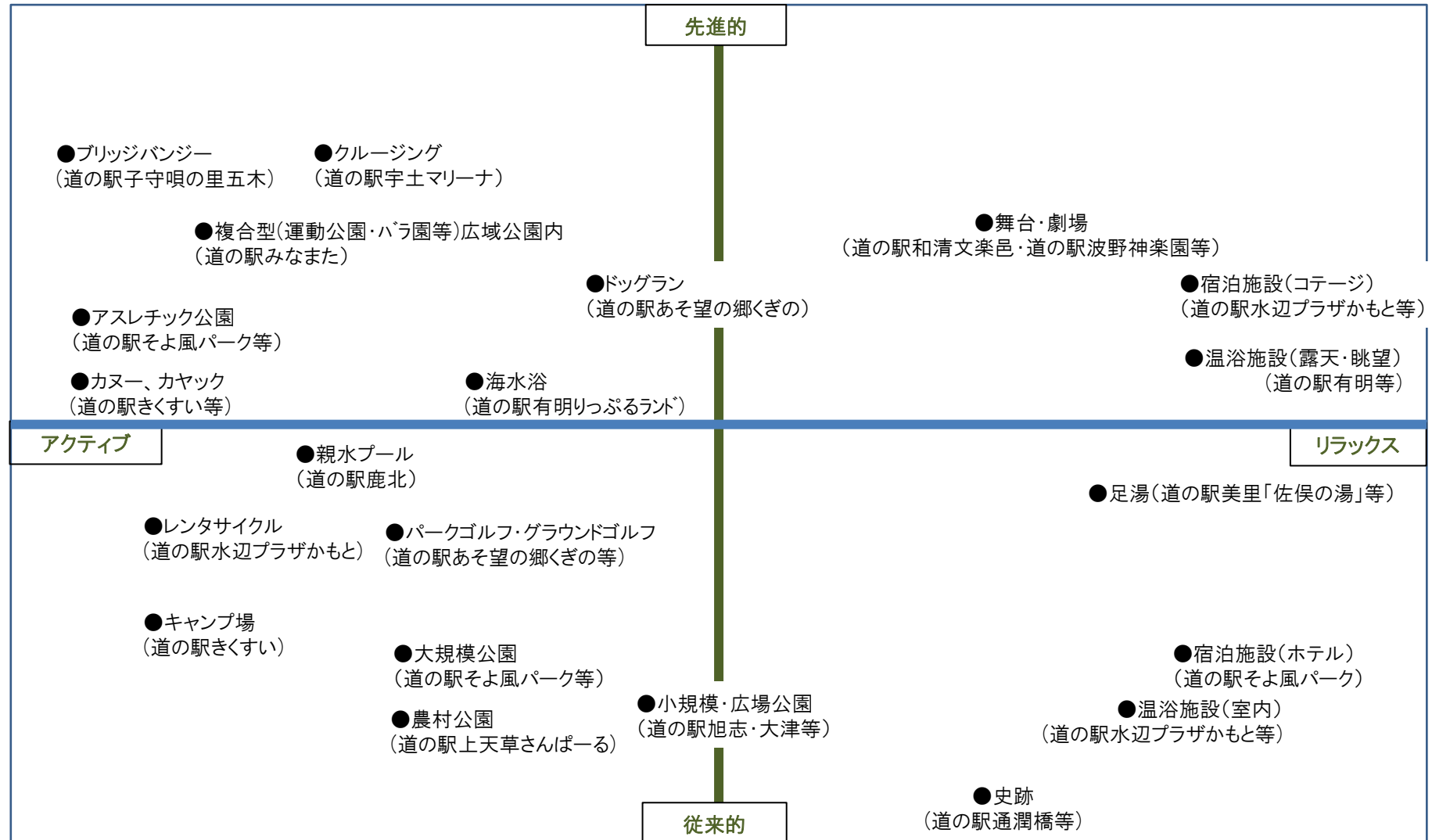
《観光関連施設資源》

■万田坑及び専用鉄道敷跡 ■宮崎兄弟の生家 ■グリーンランド

【立地要件】

- 北は福岡県大牟田市、西は有明海を隔てて長崎県・佐賀県と接する。
- 九州の大都市圏である福岡都市圏や熊本都市圏に1時間程度で移動が可能。
- JR荒尾駅から福岡方面や熊本方面に運行。
- 大牟田駅からは、西鉄電車も利用可能。
- 港湾関係では三池港や長洲港が隣接し長崎方面へのフェリーが運航。
- 高速道路では、九州自動車道の南関IC、菊水1Cが最寄りのインターチェンジ。
- 地域高規格道路である有明海沿岸道路の延伸と荒尾市へのインターチェンジ整備により佐賀方面へのアクセス環境も良好となる。

道の駅の分類:ユニークコンテンツのポジショニング(再掲)



●らしさに取り組んだ施設の事例

所在地	施設名称	特筆すべき特徴	こだわり	備考
千葉県 南房総市	道の駅 とみうら 枇杷倶楽部	【観光資源(びわ等)をパッケージ化し、都市部の旅行代理店へ販売】 ・(「道の駅」を核とした6次産業化)「道の駅」が中心となり特産のびわを加工、オリジナル商品(50種類)を開発、販売 ・(地域固有の観光資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み)地域固有の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売(道の駅が旅行業資格を取得) ・(地域の伝統・文化の継承、交流のための取り組み)富浦人形劇など、地域の伝統・文化の継承の場としても活用	地域資源の活用	全国モデル道の駅
山口県萩市	道の駅 萩しーまーと	【地元業者と共に、魚の加工品の開発。その商品は、「究極のおみやげ」等様々な賞を受賞】 ・(萩漁港の水揚げ高の約15%を販売し、地産地消に寄与)魚食普及・食育の拠点として地域活動を実施 ・地元加工業者と連携して生み出したヒット商品は、地域全体の活性化に貢献	地域資源の活用	全国モデル道の駅
千葉県 睦沢町	道の駅 つどいの郷 むつざわ	【9000歩、歩くスマートウェルネスタウンの中核拠点 定住促進センター設置】 ・一日9000歩、町民が歩くことで自然と「健康」になれる先進予防型のまちづくり「スマートウェルネスタウン」構想の中核拠点となる健康支援型「道の駅」として、健康に必要な4要素「食」「憩」「参加」のメニューを提供 ・健康づくりと地域活性化を一体的に行う拠点として、「道の駅」と「スマートウェルネス住宅」「定住促進住宅」の整備を行い、既存の「定住促進住宅」や「商業施設」と一体となった「スマートウェルネスタウン」を形成	他施設との連携 ウェルネス	H26年度 重点 道の駅
高知県 梶原町	道の駅 ゆすはら	【セラピーロード2か所認定、地域資源の有効活用を図り交流人口の拡大】 ・梶原町は、高齢化が非常に進んでおり(H25高齢化率42%、全国平均約25%)、地域福祉の充実、若者の移住促進や雇用の創出が重要な課題 ・道の駅を地域の自然を活用し健康増進を図る「ゆすはらまるごとクリニック」構想の拠点施設と位置付け、森林浴や温泉、スポーツを通し健康を再生 ・道の駅において空き家や雇用情報を一元的に提供し若者の移住を促進。さらに、道の駅の直売所を増設し地域産業を育成するとともに、地域の観光窓口として地域の観光名所や宿泊予約、体験ツアーの紹介を行うことで地域の観光産業を発展、雇用を創出	健康増進	H26年度 重点 道の駅
佐賀県 鹿島市	道の駅 鹿島	【干潟交流センター設置、体験型観光交流拠点】 ・燃焼系・癒し系の体験型観光+生物多様性を学ぶ干潟環境教室を「道の駅」を中心に実施し観光交流人口の拡大を図る ・産業活性化施設「海道しるべ」(6次産業化の拠点)と連携し、「道の駅」オリジナル商品を開発 ・「道の駅」を拠点とした買い物弱者への宅配サービスを強化するため、空き店舗等を宅配サテライト施設として整備	立地特性を活かした、干潟での体験型観光	H26年度 重点 道の駅

全国モデル「道の駅」	地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの(国土交通大臣選定)
重点道の駅	地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取り組みが期待できるもの(国土交通大臣選定)

■ウェルネス拠点に対する要求(願望) ※ウェルネス拠点基本構想検討調査によるヒアリング結果(20～70歳代、男女21名)より主な内容を抜粋・編集

【荒尾市民】 20～70歳代 男女12名

分類	ウェルネス拠点に対する要求(～したい)	機能(～することができる)
リラクゼーション	・リラックスしたい ・誰にも会わずにくつろぎたい	・温浴でゆっくりくつろげる／気軽に(仕事終わり、24時間)入浴できる ・オシャレにお茶を楽しめる／気軽にお茶を楽しめる ・子供を預けてリラックスできる
子供・子育て	・子供を楽しませたい ・子供を危険な目にあわせたくない	・子供が安全に運動できる／子供が安全に遊べる／子供だけでも時間を過ごせる ・母子が一緒に行って楽しめる／孫と一緒に遊ぶことができる
運動	・リフレッシュしたい ・健康を維持・増進したい	・気持ちよくウォーキングできる／安全かつ本格的にサイクリングできる ・好きな時に気軽に運動できる／楽しく運動できる／様々な種類の運動ができる ・高齢者、障がい者も運動できる
買い物・食	・楽しく安心して買い物、食事したい	・生産者の顔が見える食材を購入できる／旬で新鮮な食材を購入できる／オーガニック野菜を購入できる ・楽しく食事して回れる ・オシャレにお茶を楽しめる／気軽にお茶を楽しめる(再掲)
賑わい・活気	・賑やかさ、活気があってほしい ・若者が来て賑やかになってほしい ・人が行き来する場になってほしい	・いろいろなものを買うことができる／家族と楽しく買い物ができる ・何かやりたい人がやりたいことをできる／祭りができる
文化・教育	・知的好奇心を満たしたい	・コーヒーを飲みながら本が読める
誇り	・地元の良さを伝えたい	・お客様が来たときに案内することができる

■ウェルネス拠点に対する要求(願望) ※ウェルネス拠点基本構想検討調査によるヒアリング結果(20～70歳代、男女21名)より主な内容を抜粋・編集

【九州(福岡市、熊本市、大分市)・大阪・東京】 20～50歳代 男女9名

分類	ウェルネス拠点に対する要求(～したい)	機能(～することができる)
風景	・そこでしか見られない風景を見たい	・普賢岳、有明海の夕景を楽しめる ・SNS(インスタ等)に投稿できる
体験	・そこでしか体験できないことをしたい	・荒尾ならではの料理が食べられる ・特別感を味わえる ・子供が広い空間で遊びまわれる
リラクゼーション	・リラックスしたい	・静かに過ごすことができる／贅沢な時間を過ごすことができる ・のんびりと自然を体感できる ・疲れを取ることができる／身体をいやすことができる ・用事がなくても居心地良く感じることができる
歴史・文化	・知的好奇心を満たしたい	・歴史や文化を味わうことができる
運動	・マラソン大会があるといい	・他人と交流できる
交通	・気軽に動きたい	・車を持っていなくても行くことができる

【参考資料】 施設の機能性に関する資料

道の駅に想定される収益機能

直売機能

既存の道の駅においては、「地域振興施設」における核となる機能で、生鮮品・加工品などの販売スペース。

施設整備を行う市町における農産品・加工品の生産量・加工能力(加工品の品目数・加工量など)や立地条件などから、広さ・棚割り(冷蔵棚の設置)が、設定される場合が多くなっています。



飲食機能

ここ数年では、多くの道の駅・直売所の敷地内に併設される傾向にある。

地元の食材を使用した料理の提供によって、地域の食文化の伝承や、販売商品の美味しさのアピールとなる。

※雇用促進の一面もあります。



テイクアウト機能

飲食機能とは別で、立ち寄り客や買い物客が、簡易に調理したての商品を購入可能な機能。帰りの車中での飲食や、休憩スペースでの軽食として人気があります。



加工機能(加工所の併設)

農産品(野菜・精肉・鮮魚)のみならず、加工品の新鮮さのアピールと、加工品の「しずる感※注)」を出すために、加工施設を販売店舗内や敷地内での併設を行います。

※注)「しずる感」: 出来立て感・匂いなどにより商品の魅力を伝えることです。



道の駅に想定される付加価値機能

イベントスペース

施設への集客のため、定期的にイベントを実施するスペース。
音楽コンサート・パン祭り・新茶祭り・餅つきなど、テーマ性や季節を反映させたものが多い。
専用スペースではなく、駐車場の一部を利用する場合があります。



休憩スペース

施設の立地場所によっては、周辺景観を楽しんでもらうための、滞留スペースとしてや、テイクアウト店舗の食事スペース(フードコート)として設置してある場合が多くなっています。



観光情報発信機能(道の駅登録においては必須)

道の駅の登録要件としては必須となる機能。情報発信スペースに、観光協会を設置し、常時人を配置してある施設と、パンフレットのみを設置した、無人の施設があります。



道の駅に想定されるユニークコンテンツ機能事例

ホテル(収益機能)

全国に、1145施設ある道の駅の中で、宿泊施設が併設されている道の駅は85か所あります。千葉県道の駅保田小学校もその一つで、廃校を活用し、宿泊機能を有しています。

また、地元の食材を使って給食の味を再現した里山食堂やカフェや、体育館を利用した特産品販売所の「里山市場きょなん楽市」は地域内外において人気の直売所となっています。

また、最近では、積水ハウスと米ホテル大手マリオット・インターナショナルが、全国5府県にある「道の駅」15カ所に併設したホテルの建設計画を発表しました。岐阜県内では4カ所に建設予定で、2020年10月以降の開業を目指します。

- 美濃にわか茶屋(美濃市)に4階建て(延べ床面積2180平方メートル、53室)
- 古今伝授の里やまと(郡上市)に3階建て(同3080平方メートル、85室)
- みのかも(美濃加茂市)に3階建て(同3120平方メートル、85室)
- 高山市荘川町の道の駅「桜の郷 荘川」の隣接地に4階建ての延べ床面積2700平方メートル、60室の規模を予定。

ホテルはいずれも宿泊のみで、食事や土産物は道の駅を利用して地域ごとの特色を出せるようになっています。



温泉施設(収益機能)

温泉施設を併設した道の駅として、熊本県内に「道の駅 子守唄の里五木」があります。同敷地内に、「五木温泉 夢唄」が併設されており、露天風呂から見る紅葉の景色は評判がよく、集客装置となっています。

他、夢唄食堂・物産館山の幸などがあります。また、五木村観光案内所では山・川・里を満喫できる、時期折々のイベント情報や観光地の案内がなされており、カーやクライミングなどのアクティビティなどの受け付けています。



道の駅に想定されるユニークコンテンツ機能事例

観覧車など遊具(収益機能)

道の駅 富士川楽座には、富士山の麓という立地を活用し、観覧車や緑地公園を整備。観光客の人気のコンテンツとなっています。



くつろげる空間(付加価値機能)

道の駅うきはでは、筑後平野を見下ろせる、デッキを整備、買い物・飲食後に休憩できるスペースを保有しています。また、新たなユニークコンテンツとして、「ウキハコ」を整備して、来訪者の交流拠点となっています。



緑地公園(付加価値機能)

道の駅おうとうでは、施設の横に公園を整備し、家族ずれが楽しめるようにしています。また、新たなユニークコンテンツとして、イルミネーションが話題となっています。



道の駅に想定される**公共機能**

ユニバーサルデザイン

公的資金で整備される道の駅・直売所においては、トイレも含めバリアフリー化がすすめられており、ユニバーサルデザインの施設が多く見受けられます。



防災機能

一般的に、国道や主幹道路など交通量の多い道路に面し、地域における認知性・視認性の高い道の駅は、災害時において、避難者支援・情報提供支援・災害復旧拠点施設として大きな貢献を果たしており、これら貢献の実績から、防災拠点としての機能を付加させる道の駅は増える傾向にあります。

